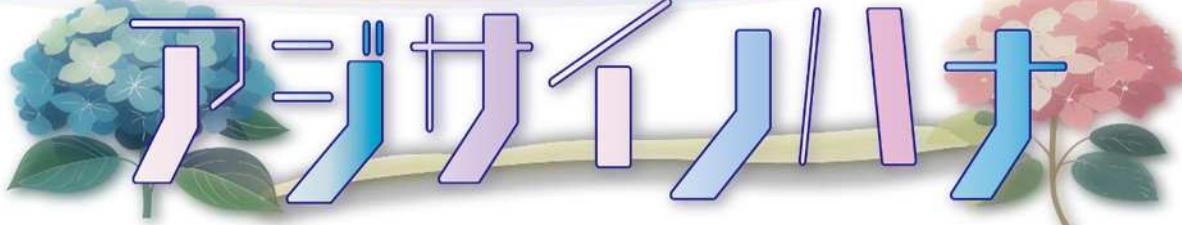
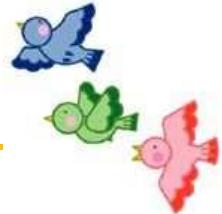


豊田市立崇化館中学校校長室だより



令和7年9月11日（水）発行（文責：松原秀敏）



## 『八月や 六日 九日 十五日』

この夏、新聞で目にした一句です。

広島・長崎に原子爆弾が投下された日が八月六日、九日、そして、長い戦争が終わった終戦記念日が八月十五日です。今年、日本は戦後80年を迎えた。80年前の映像や当時を知る方のインタビューがテレビや新聞で報道され、二度と戦争を起こしてはならないと、平和への強い決意を固める節目の夏となりました。一方で、今なお、世界で続く戦争や紛争の悲惨な映像や悲痛な叫びが報道され、やり場のない怒りを覚え、心を痛めることもありました。日本で今を生きる私たちは、未来の「平和」に向かって何ができるのだろうと思う夏でした。



先日、三年生のみなさんと、参合館の豊田市コンサートホールで行われた「心に残る記念事業」に参加しました。名古屋フィルハーモニーの素晴らしい演奏を楽しみ、感謝の気持ちを込めて全力で拍手を送りました。このコンサートには、崇化館中以外にも、いくつかの中学校の三年生がいました。コンサートが終わり、遠い中学校から順に静かに会場を出ていきました。どの学校の生徒たちもコンサートホールにふさわしいマナーで、退場の間、静かに座席に座っていました。すると、司会の方が「せっかくの機会ですので、退場するまでの時間、今日のコンサートの振り返りをしませんか？」と言いました。崇化館中だけでなく、すべての学校に自主的に挙手をする生徒がいました。司会の方からマイクをもらい、コンサートの振り返りが発表されると、その生徒に向かって、学校を問わず会場全体から温かい拍手が送られました。各校の生徒の振り返りが続くにつれ、コンサートホール全体に、コンサートの心地よい余韻が広がっていくように感じました。「平和」とは、こんなふうに創っていくものなのかもしれないと思いました。

「勇気をもって【振り返り】を仲間に伝え、仲間はその勇気に温かい拍手を送る」こうした行動の積み重ねが、「平和」へつながっていくように思います。初めに紹介した俳句が載っていた新聞に「平和とは誰かが与えてくれるものではなく、あらゆる他者と共に創っていくものである」と書かれていました。仲間と共に日々を振り返ることを通して「平和」を創る方法を学ぶ場が学校なのだと思います。そのために、毎日の授業を、すべての仲間にとてやさしい時間にしていきたいです。『仲間と共に創るやさしい授業』は、きっと学校生活の様々な場面で「名場面」を生むことでしょう。これは先生たちだけではできません。主役であるみなさんの力が必要です。あわてなくていいです。あきらめることなく、ゆっくりと『やさしい授業』を創っていきましょう。（令和7年9月1日 全校集会より）